



APERTURE
RESEARCH & VERIFICATION



APERTURE
RESEARCH & VERIFICATION

MH370 国際読者ガイド

Aperture の調査、主要所見、証拠の限界を簡潔に理解するためのガイド

日本語

INTERNATIONAL ACCESSIBILITY GUIDE | EVIDENCE CUT-OFF: 7 AUGUST 2026

Reality before reliance. Verification before interpretation.
No conclusion stronger than the available evidence.

正式版に関する注意

本ガイドは、英語版の完全な MH370 調査ドシエを理解するための補助資料です。英語版ドシエが管理された正式版です。本翻訳と英語版の間で意味、用語、証拠分類に相違がある場合は、管理された英語版が優先します。

APERTURE が調査した範囲

Aperture は、マレーシア航空 MH370 便に関する公開証拠を検討しました。対象には、マレーシアの公式調査、衛星通信、レーダー航跡再構成、回収された残骸、漂流研究、水中搜索記録、競合する原因仮説、主要な公開主張が含まれます。

ドシエの目的

本ドシエは、第三者が検証できる証拠製品として設計されています。確立された事実、支持された推論、争われている主張、未解決の問題を分離します。必要な一次証拠が依然として得られていない事項について、解決済みとは主張しません。

最も強い証拠が支持すること

- MH370 はクアラルンプールを通常どおり離陸し、その後通常の二次監視識別を失いました。
- 通常通信が失われた後、機体は西へ進路を変更し、さらに数時間飛行を続けました。
- 衛星通信記録は、南インド洋へ向かう経路群を強く支持します。
- 回収された残骸は、インド洋で機体が行方不明になったという結論を独立に補強します。
- 18:25 の SDU ログオンは、重要な電源中断後に SDU 電源が回復したと強く整合しますが、その中断の歴史的起因は未確定です。
- 00:19 の最終 SATCOM シーケンスは、燃料枯渇後に APU が電源を回復したという枠組みに最もよく整合します。
- 最終 BFO 値は、大きく急速に変化する降下成分と強く整合しますが、それだけで正確な降下率、機体姿勢、制御状態を一意に決定するものではありません。

公開証拠が確立していないこと

- 主残骸の正確な位置。
- 失踪の発端となった原因。
- 航路逸脱の各段階で機体を操縦していた人物の身元。該当者がいた場合を含みます。
- 意図または動機。
- 一意に証明された終末飛行時の制御状態。
- 機長の家庭用シミュレーターデータが、後の MH370 の飛行経路を正確に予行したものであること。
- 火災、減圧、低酸素、または意図的行動が発端原因として証明されたこと。

原因仮説

現在の研究記録では、機内での意図的な人為行為と、緊急事態への対応後に後発的な行動不能が生じたシナリオを、最も強い二つの広義原因群として扱っています。どちらも確立されていません。証拠が責任ある区別を許さない場合、ドシエは競合説明間の対称性を意図的に維持します。

現在の搜索状況

マレーシアは Ocean Infinity との現行搜索契約を 2027 年 6 月 30 日まで延長しました。マレーシア政府の公式更新によれば、延長時点で現在の対象海域のうち 7,428.54 km² が未完了でした。狭い位置推定に依拠する前に、最新の搜索結果を将来版へ反映する必要があります。

証拠評価の読み方

- ESTABLISHED：強い一次証拠または収束する証拠により直接支持される。
- STRONGLY SUPPORTED：現在最も強く支持される解釈だが、直接証明と同義ではない。
- SUPPORTED / MODEL-DEPENDENT：合理的で技術的支持があるが、仮定やモデルに敏感。
- INDETERMINATE：利用可能な公開証拠では責任をもって判断できない。
- EVIDENCE GAP：依拠可能性を制限する、欠落した資料、記録、計算、レビュー、または物的証拠。

重要な限界

主残骸、FDR、CVR は依然として得られていません。完全な軍用レーダー生データ、完全な元シミュレーター鑑識資料、現在の Ocean Infinity の完全な AUV/QC データ、独立した SATCOM 数値再現も重要な欠落です。本ドシエを外部検証済みの技術最終版として扱う前に、独立した専門家レビューが必要です。

APERTURE のアプローチ

- 依拠の前に現実を確認する。
- 解釈の前に検証する。
- 物語より証拠を優先する。
- 利用可能な証拠より強い結論を出さない。
- 重要な矛盾を隠さず開示する。
- 代替仮説を最も強い形で構成し、反証を試みる。
- 情報源の依存関係と真の独立した裏付けを区別する。

完全な英語版ドシエ

完全な英語版ドシエは、本ガイドより意図的に大幅に詳細です。主要調査叙述、年表、主張と証拠の分析、情報源・証拠登録、SATCOM、レーダー、残骸、搜索分析、競合仮説、反証作業、証拠欠落、専門家レビュー質問、管理された研究記録を含みます。

文書状態：国際アクセス用ガイド。管理された英語版ドシエの代替ではありません。独立した公開情報ケーススタディであり、顧客案件ではありません。

Core source families represented in the controlled English dossier: Malaysia Ministry of Transport Safety Investigation Report; ATSB MH370 data communication logs and underwater-search reports; CSIRO drift research; Geoscience Australia search-data releases; Malaysia Ministry of Transport current Ocean Infinity search updates. The complete proposition-specific citations are contained in the English dossier and its controlled registers.